
炎歌

三頁-

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

炎歌

【Nコード】

N3846A

【作者名】

三頁

【あらすじ】

不思議な力を宿した少年の炎が渦巻く、不思議な恋の不思議なお話です。

罪人

生まれながら人間は何かしらの力を体に宿しているらしい。ただそれを引き出すか引き出さないか、引き出せるか引き出せないかの問題らしい。

僕の場合そんな気も無いし何もしてはいない。が、力があつた。今思えばそんな力、ない方が良かった。その力が僕の人生を狂わせた。

僕は今高校の寮にいる。ただの寮ではない。そこには世の法に反する、いわば犯罪行為に手を染めた少年少女達が集まった学校。

もちろん、僕も犯罪を犯した一人だ。

1・罪と罰

時は2006年5月一日。

僕は今高校一年生。まだ周りの人の顔や名前もよく覚えてはいない、入学して間もない、『ある事』を除いては普通の高校生。

その『ある事』の話はまた後にしよう。

+

入学式終了後、おそらく誰もが緊張して見るクラス分け発表の掲示板を、僕は何の感情も無く只無意識に眺めていた。

僕は情報企画科という推薦のみで受かる事のできるクラスであり、三年間変わることのないクラスだ。そんなに変化のない人達の名前を見た所で、同様などはしない。

そして何より、友達がこの高校事態ではなく僕事態に一人もいないので誰が何処で何であろうが知ったことじゃない。

周りに歓声や悲鳴が飛び交う中、僕は一人自分に決められたクラスへと足を運んだ。

少し説明をしておく、この山代高校の偏差値事態は差ほど高くない。がしかし、今年はやたらと人気が急上昇し、人が溢れかえっている。

人とはそんなものだ。人気があると耳にすればそこへと集まってくる。この高校に人気が出るものなど無い。

僕はもちろん人気に誘われたのではない。ただ偏差値が偶然にもこのこと一致しただけ、それだけの話。馬鹿と貶される事もなく、天才

と呼ばれる事もないごく普通な所。そんな所で普通の高校生活をおくろうとしている反面、秘かに出会いを求めているたりする。友達がいらないとはつまり今から新しい友達をいくらでもつくれるという事、つまり僕はいわゆる高校デビューを計ろうと試みた訳だ。

説明している間に自分のクラスに到着した。

僕は結構早く来た方だと思う、廊下から見た教室は窓一つ開いておらず、後ろのドアに拳程の隙間が開いている。その中からは物音一つしない。外見は綺麗なドアだがゆっくりスライドさせると金具が擦れ合う鈍い音がした。カーテンの隙間から目映い陽が虚しく差し込み、薄暗い教室を照らし明かしていた。

最初に目に飛び込んできたのは、ぎっしりと敷き詰められた41人分の机と椅子。

どこことなく新しい木材の匂いが風に乗って届いてきた。

次に見たのは、陽に照らされ逆光でシルエットのようになっていた、人影だった。その影の輪郭からして女性である事は間違いないだろう。

彼女は両手に赤い物体を大事そうに持ち、ソレを眺めていた。

この時既に、僕は罪を犯していた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3846a/>

炎歌

2011年1月27日04時21分発行